

東証スタンダード | 証券コード 3083

2027年2月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

対象期間：2026年3月1日～2026年8月31日

中間期実績（2026年10月14日公表）：売上高15,534百万円／営業利益32百万円／経常損失△76百万円／純損失△248百万円（*1）
通期予想（2026年9月8日上方修正）：売上高35,000百万円／営業利益1,600百万円／経常利益1,250百万円／純利益680百万円（*2）

（*1）親会社株主に帰属する中間純損失

（*2）親会社株主に帰属する純利益

スターシーズ株式会社

2026年10月14日

CONTENTS

目次

I	エグゼクティブサマリー	03	II	業績予想の修正経緯	04
III	損益計算書サマリー	05	IV	セグメント別実績	06
V	グループ構成と損益の帰属	10	VI	営業外損益・特別損益等の概要	11
VII	中期経営計画との対比	12			

エグゼクティブサマリー：黒字転換、売上は予想超過、利益は未達

前年同期比 売上高

6.2倍

2,511百万円 → 15,534百万円。新規事業であるGPUサーバー等事業と系統用蓄電池事業が貢献

前年同期比 営業損益

黒字転換

△217百万円 → 32百万円。前年同期比で249百万円の改善。

売上高中間期予想 達成率

180.6%

売上高は予想8,600百万円を6,934百万円超過。一方営業利益の達成率は11.4%（△248百万円）。

売上高通期予想 進捗率

44.4%

売上高は予想35,000百万円に対して15,534百万円の実績。営業利益1,600百万円に対する進捗率は2.0%。

中間期売上高の超過要因 GPUサーバーの受注を当初計画より大幅に前倒しで獲得したことが要因。GPUサーバー等事業のセグメント売上高は13,298百万円、営業利益は365百万円（営業利益率2.7%）

中間期営業利益の未達要因 「系統用蓄電池事業の物件売却を1件のみにとどめたこと」「成長加速のための新規事業等において、人員の新規採用を含む先行投資費用を、事業推進加速のために前倒し計上したこと」

2026年9月8日に上方修正した通期予想（売上35,000百万円・営業利益1,600百万円）は据置き

下期は、「GPUサーバー等事業が引き続き好調に推移していること」、「系統用蓄電池事業は当初より下期偏重の事業計画であり、売却及び自社運用による利益貢献が見込めること」、「当社グループでは十分なシナジー効果が生み出せず赤字が継続していた連結子会社の株式会社チチカカを売却したこと」等により営業利益1,568百万円を計画。

業績予想の修正経緯：中間期1回、通期2回の上方修正

(単位：百万円)

開示日	内容	売上高	営業利益	経常利益 (△損失)	純利益 (△損失) (*)
2026年4月17日	中間期 期初予想	6,000	250	200	130
2026年6月3日	中間期予想 上方修正	8,600	280	230	150
2026年10月14日	実績値	15,534	32	△76	△248
2026年4月17日	通期 期初予想	26,000	1,100	900	500
2026年6月25日	通期予想 上方修正 (1回目)	30,000	1,450	1,100	600
2026年9月8日	通期予想 上方修正 (2回目)	35,000	1,600	1,250	680
増減 (通期予想)	増減額 (1 回目修正⇒2回目修正)	+5,000	+150	+150	+80
(参考) 前年同期	2026年2月期 第2四半期累計	2,511	△217	△222	△241
(参考) 前期通期	2026年2月期 通期実績	10,017	199	175	63

6月3日 / 中間期予想を上方修正した理由

GPUサーバーの受注を当初計画より大幅に前倒しで獲得。蓄電池は当初想定を上回り好調に推移する見込み。衣料品は概ね計画どおり。

6月3日 / 通期予想を据置いた理由

成長加速に向けた人材投資・情報システム投資・新規事業投資等を機動的に実施する可能性を考慮し期初予想を据置き。

9月8日 / 通期予想を上方修正した理由

蓄電所（販売用不動産）の取得完了により計画どおり進捗。開示基準に満たないGPU受注の積み上げが想定超。

6月3日時点で想定していた成長のための投資を、事業加速のために中間期で前倒しで計上したことが、中間期における営業利益の業績予想と実績の差異の主たる要因。事業環境は良好で順調に推移しており、既に公表済の業績予想を目指す。

連結損益計算書サマリー

(単位：百万円)

単位：億円	中間実績	中間期予想	中間達成率	前年同期	通期予想	対通期予想進捗率
売上高	15,534	8,600	180.6%	2,511	35,000	44.4%
売上総利益	1,508	—	—	1,265	—	—
販売費及び一般管理費	1,476	—	—	1,482	—	—
営業利益	32	280	11.4%	△217	1,600	2.0%
営業利益率	0.2%	3.3%	—	△8.6%	4.6%	—
経常利益（△損失）	△76	230	—	△222	1,250	—
親会社株主に帰属する純利益（△損失）	△248	150	—	△241	680	—
1株当たり利益（円）	△28.69	17.90	—	△47.00	73.25	—

中間期においては、新規事業の進捗により前年同期に対し売上高は6.2倍、営業利益は黒字転換と、規模・収益性ともに大幅改善。

営業利益は中間期予想に対し△248百万円の未達。この主たる要因は新規事業への先行投資を中間期に前倒しで行ったこと。

営業外損益は、中間期実績では△108百万円、通予想では350百万円を想定。

中間期セグメント別実績：売上高・営業利益・営業利益率

(単位：百万円)

セグメント	売上高 中間期実績	営業利益 中間期実績	営業利益率 中間期実績	売上高 通期計画	営業利益 通期計画	売上 進捗率	営業利益 進捗率
① 衣料品等事業	1,570	△128	△8.2%	—	—	—	—
② 系統用蓄電池事業	666	31	4.7%	—	—	—	—
③ GPUサーバー等事業	13,298	365	2.7%	—	—	—	—
全社費用・連結調整	—	△236	—	—	—	—	—
連結合計	15,534	32	0.1%	35,000	1,600	44.4%	2.0%

中間期の売上高については、系統用蓄電池事業において利益の最大化のために中間期の売却物件を1件に留めたことから計画を下回ったものの、GPUサーバー事業と衣料品等事業においてはほぼ計画通り

中間期の営業利益については、新規事業への先行投資の加速のための前倒し計上により、計画を下回る結果となった。

衣料品等事業：上期に損失が集中する季節性、構造改革は計画線

中間期売上高

1,570

百万円

中間期営業損失

△128

百万円

中間期営業利益率

△8.2%

株式会社チチカカを売却

2026年9月より連結対象外となり、売上高は減少するが利益・資金繰りに貢献

業績概況

- 中期経営計画の方針どおり、売上は年率20%縮小し、営業損失を縮小、FY2029.2の黒字化を目標とする。
- 上期（3～8月）は春夏商戦が中心で構造的に赤字。利益は秋冬（9～2月）に偏る季節性を持つ。
- 当社グループにおいては十分なシナジー効果が生み出せず赤字が継続していた株式会社チチカカの売却も含め、下期は収益改善を計画。
- 不採算店舗の段階的閉鎖とSKU最適化を継続。滞留在庫は90日未満を管理指標とする。

系統用蓄電池事業：通期では概ね計画通り進捗、売却案件は下期偏重

中間期売上高

666

百万円

中間期営業利益

31

百万円

中間期営業利益率

4.7%

物件売却が下期偏重

現状当社が保有する物件: 4件

業績概況

- ・ 9月8日開示のとおり、販売用不動産（系統用蓄電所の土地・設備）および電力接続権の取得が完了し、事業計画に沿って順調に進捗。通期計画は据置き。
- ・ 中間期は蓄電所1件の売却を計上。開発・系統連系のスケジュール上、売却案件は下期に集中する。
- ・ All-in-One型SS蓄電池システムの受注が継続（年出荷容量200MWh超）。
- ・ 表示区分に留意：蓄電所の保有区分により計上箇所が変わる（棚卸資産＝売上／営業利益、固定資産＝特別利益）

現状当社が保有する物件

物件名	工事完了予定	運転開始予定
和歌山県「和歌山井ノ口蓄電所」	2026年11月	2027年1月
鹿児島県「曾於市蓄電所」	2027年1月	2027年2月
三重県県「伊勢市馬瀬町蓄電所」	2026年12月	2027年2月
愛知県「知多郡東浦町蓄電所」	2027年1月	2027年2月

GPUサーバー等事業：通期上方修正の主要因

中間期売上高

13,298

百万円

営業利益

365

百万円

営業利益率

2.7%

受注状況は引き続き好調

加賀電子との委託生産協業
に関する基本契約書締結
シーイーシーとのGPU
データセンター事業に関する
包括的基本合意書締結

業績概況

- ・ サーバー関連商品の大型案件が上期に集中。
- ・ 9月8日の通期上方修正は**当事業の受注積み上げを主因**とする。開示基準に満たない受注案件の売上実績が当初想定を上回って推移。
- ・ 加賀電子との委託生産協業に関する基本契約書締結 ⇒ 日本国内生産を行う製造事業者へ（粗利率の改善）
- ・ シーイーシーとのGPU データセンター事業に関する包括的基本合意書締結 → データセンター事業への進出

進捗	年/月			年/月
GPUサーバー関連商品の売買取締結	2025年9		データセンター用サーバー関連商品の売買取締結	2026年5月
AIクラスター用サーバー関連商品の売買取締結	2026年2月		データセンター用サーバー関連商品の売買取締結	2026年7月
データセンター用サーバー関連商品の売買取締結	2026年4月		データセンター用サーバー関連商品の売買取締結	2026年9月

グループ構成と損益の帰属：各事業セグメントと全社費用・連結調整

スターシーズ株式会社（親会社）

グループ全体の統括を担う。統括・管理部門費および上場関連費用を全社費用として負担する。

Starseeds Digital 株式会社

持株比率60%／
2025年9月設立

GPUサーバー等事業

系統用蓄電池部門

社内部門＋蓄電所

系統用蓄電池事業

衣料品等部門

社内部門＋連結子会社

衣料品等事業

各部門・子会社による各事業セグメントの営業利益の合計と、連結財務諸表に計上される営業利益は一致しない。差異は右表のとおり全社費用・連結調整として表示される。

各事業雪面とから連結への突合

単位：百万円	中間期	通期
各事業セグメントの 合計	268	—
全社費用・連結調整	△236	—
連結営業利益	32	1,600

営業外損益・特別損益等の概要

単位：百万円	通期予想	上期実績	進捗率
営業利益	1,600	32	2.0%
営業外収益・費用（純額）	△350	△108	—
経常利益	1,250	△76	—
特別利益・特別損失	—	△25	—
法人税等	—	59	—
非支配株主に帰属する純損益	—	88	—
親会社株主に帰属する純損益	680	△248	—
1株当たり純利益（円）	73.25	△28.69	—

資金調達に関連する費用が発生

営業外費用の上期実績・通期予想において、資金調達関連費用が発生。

税負担

上期において、所得・損失が発生している各グループ会社での損益通算が出来ないため、税負担が発生

非支配株主に帰属する純損益

スターシーズデジタルの純利益の40%は非支配株主に帰属

中期経営計画との対比

単位：百万円	FY2026.2 実績	FY2027.2 中計	FY2027.2 公表予想	FY2028.2 中計	FY2029.2 中計
売上高	10,017	26,000	35,000	40,900	63,170
営業利益	199	1,100	1,600	2,150	3,670
営業利益率	2.0%	4.2%	4.6%	5.3%	5.8%
うち 衣料品等事業の売上高	—	2,000	—	1,600	1,280
うち 系統用蓄電池事業の売上高	—	6,000	—	7,800	10,140
うち GPUサーバー等事業の売上高	—	15,000	—	22,500	33,750
うち データセンター事業の売上高	—	3,000	—	9,000	18,000

2026年4月17日に中期経営計画で3か年数値計画を公表後、主にGPUサーバー等事業の好調から初年度である2027年2月期の業績予想を上方修正しているが、**2028年2月期以降の業績予想数値は修正していない。**

DISCLAIMER

免責事項および情報ソースに関する注意

本資料に記載されている業績予想、事業計画、目標数値等の将来に関する記述は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

主な変動要因

- GPUの供給状況およびNVIDIA社の割当方針の変更
- AI関連市場の需要変動および競争環境の激化
- データセンター建設の進捗状況、許認可の取得遅延
- 蓄電池事業に関する電力市場価格の変動、国・自治体の補助金制度の変更
- 為替レート（USD／JPY、CNY／JPY）の変動および金利環境の変化
- 法規制の変更、自然災害、感染症等の不可抗力

本資料は情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買を推奨するものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断と責任において行われるようお願いいたします。各適時開示の参照はTDnet（東京証券取引所適時開示情報閲覧サービス）の公式情報に基づいています。